



猛毒のハブクラゲ、過去66年間でこのクラゲによる被害例が最も多い、全体の28%

# シリーズ 沖縄の海の生きもの

## かりゆしの海～無脊椎動物

国営沖縄記念公園水族館長 内田詮三

「専攻:骨のない動物、シャコ、生態学」これは水産大学校のH博士の名刺に記されている面白い自己紹介である。「無脊椎動物」と書くと、馴染み薄く、物物しいと感じるかも知れぬが、要するに背骨のない動物のことである。即ち、海にいる仲間としてはイカ、タコ、貝、ウニ、エビ、カニ、ヒトデ、クラゲ、サンゴなどであって、食品として、海の危険動物として先刻御承知の面々である。

今回は沖縄の海に住む、この無脊椎動物達を御紹介しよう。尚、サンゴ類については本シリーズ、'98年3月号に掲載されているので、ここでは省いてある。

まずはオニヒトデ、サンゴを食い荒らす、観光沖縄の大敵、いかにも毒々しく、サンゴを食害するだけでなく、鋭い棘には毒があり人にとっての危険動物でもある。ヒトデ類はウニ類やナマコ類と共に棘皮動物に属している。



サンゴの天敵、オニヒトデ

沖縄では寿司種として美味しいシラヒゲウニ、棘が危険なガンガゼ、ナマコ類では数少ない食用種ハネジナマコなどが知られている仲間だ。軟体動物ではイカ類、タコ類、貝類が身近なグループである。

日本人は世界に冠たるイカ食い人種であって、世界中の食用イカが日本に集ってくる。コブシメはコウイカ類の最大種で外套長(胴の長さ)50cmにもなり奄美大島以南に分布する。沖縄ではアオリイカ(シリイチャ-)と共に昔から大変馴染み深い海の恵みであった。最近では深い所に生息するソデイカ(セイイカ)の漁法が沖縄で開発され、重要な水産物となってきた。このイカは県水産試験場の調べでは外套長90cm、体重20kg以上にもなる大型のイカである。

イカ喰いのコビレゴンドウ(ヒート)やマッコウクジラの大好物の餌動物だ。セイイカ漁の水深は約500mの深海なので、副産物として、目的種以外に世界最大のイカ、ダイオウイカや、日本初記録のシチクイカなど珍しいイカ類が釣れる。いずれも食用にはならぬが標本として重要である。石川沖でとれた、全長6.9m、体重63kgのダイ



深海の巨大イカ、ダイオウイカ、外套長1.3m、全長6.9mの日本最大標本

オウイカは日本にある標本としては最大個体である。全長20m位になると言われているが、正確な最大サイズは不明、分類的にも未確定な謎の巨大イカで、大マッコウとの深海での

死闘が興味をそそる。タコ類ではシマダコやワモンダコが沖縄で食用となっている大型種だ。小さなヒョウモンダコは派手な体色で、噛まれると致死的な猛毒種である。食用の貝で、沖縄風寿司種のチャンピオンはシャコガイ類で、なかでもヒレジャコガイが大型で、美しい外套膜の色彩でも名高い。

エビ類、カニ類は節足動物の中のグループの一つである甲殻類に属している。

節足動物には膨大な種数を擁する昆虫類も含まれる。最も沖縄らしいエビ類は大型で色彩豊か、高級食用種であるニシキエビやゴシキエビであろうか。

その他の食用種としてシマイセエビ、セミエビなども沖縄魚市場の特徴種として登場するエビ類である。

カニ類は沖縄周辺に300種位生息しているといわれている。

サンゴ類と共生している甲巾3mmにも満たぬサンゴヤドリガニの仲間から甲巾20cmにもなる危険なハサミ脚をもつノコギリガサミ迄、大きさも、体色も様々である。

ノコギリガサミはガサミ類の最大種であり、魚市場に水揚げされる時には既にハサミ脚をしっかりと縛られ、身動きできぬようにしてある。

アサヒガニは美しいオレンジ色の体色で甲長の方が甲巾より長い縦長の形をしたカニで大変美味である。奄美以南に多い。

このように、かりゆしの海は「骨のない動物」の数々を、その恵みとして人間にも与えてくれているが、何事も恵みだけというわけには参らぬ。「骨なし」の危険動物も多々存在しているわけで、過去66年間に県内で発生した海の危険動物によってヒトが受けた被害の63%は無脊椎動物、中でもハブクラゲを始めとするクラゲ類は最も多く、全体の46%を占める(新城他、1996)。この他猛毒のアンボイナガイ、タガヤサンミナシガイなど死亡例もあるイモガイ類、ウンバチイソギンチャクも沖縄の海の住人である、御用心の程を、



ヒレジャコガイ、外套膜の色彩は美しく、様々な変異がある



ニシキエビとセミエビ(赤茶色の2匹)



名護魚市場に水揚げされたアサヒガニ